

会 議 録

1 会議名

平成28年度第3回板倉区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 地域活動支援事業の審査について (公開)

(2) その他 (公開)

・板倉区地域協議会運営に関する内規について

・部会の編成について

3 開催日時

平成28年6月1日(水) 午後6時00分～午後9時24分

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者(傍聴人を除く)の氏名(敬称略)

・委員：平井達夫(会長)、新井清三(副会長)、小林良一(副会長)、福崎幸一、徳永妙子、古海誠一、北折佳司、長藤豊、西田節夫、島田信繁、上野きみえ、古川政繁、増村眞一、島田正美

・事務局：板倉区総合事務所 五十嵐所長、山崎次長、山岸総務・地域振興グループ長、武藤市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、山中産業グループ長、嘉鳥地域振興班長、樋口主事、関主事(以下グループ長はG長と表記)

8 発言の内容(要旨)

【山崎次長】

・地域協議会の開会を宣言

【平井達夫会長】

- ・あいさつ

【五十嵐事務所長】

- ・あいさつ

【平井達夫会長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・(1)「地域の活動支援事業の審査について」を議題とし、事務局の説明を求める。

【山岸G長】

- ・資料1、2により説明

【平井達夫会長】

- ・提案事業の審査に入る。審査の進め方について得点順の資料No.2を使い例年どおり得点が上位の事業から今年度の板倉区配分額640万円の範囲で、採択すべき事業を選定することとし、その際に事業費の内訳を精査して、適正な助成額を決めていただくことにしたいが、異議ないか。

【委員】

- ・異議なし

【平井達夫会長】

- ・最初に事業No.3「山寺薬師本堂屋根改修事業」について、質問・意見を求める。

【西田節夫委員】

- ・ヒアリングの時に山寺の代表の方から説明を受けたが、寄付金の見積りが130万円だったが、まだその半分まで集まったのかはっきりしていない。自主財源が403万円あるが、寄付金が130万集まらないといけないという話であり厳しい。
- ・150万円の申請が出ていて自主財源を全部使うと維持・管理費用がなくなる。後で、委員で議論していただきたい。

【小林良一副会長】

- ・東山寺の実情は今まで積み立てた400万円を使うということだが、これからも管理運営しなければならないが、何とか屋根を直したいということで本当は200万円という補助希望額としたかったが、全体のことを考えて遠慮しながら150万円としたと聞いている。

【古海誠一委員】

- ・先日の説明では助成金が維持費として出ているという話でなかったか。

【西田節夫】

- ・42,000円

【古海誠一委員】

- ・その辺でやりくりしてもらい150万円満額でよいと思う。

【古川政繁委員】

- ・実情は先般聞いた。山寺の人も大変な努力をしてもらっている。その中で150万円、得点も高得点をつけており私はこの金額でやっていただきたい。

【平井達夫会長】

- ・それでは、「山寺薬師本堂屋根改修事業」について提案どおり採択する事業としてよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・「山寺薬師本堂屋根改修事業」については、助成金150万円として採択すべき事業としてよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・助成金150万円として採択する。続いて事業No.1「絆の森づくり事業」（地すべり災害跡地復興事業）について、意見・質問を求める。

【西田節夫委員】

- ・去年は31万7千円が今年3倍の96万6千円である。苗木は去年の2倍なのに金額は3倍というのは合わないのではないか。なぜこんなにかかるのかと調べたが、どうしても合わない。この金額の半分に落としてもできるのではないか。地すべり事業は本来、県や砂防事務所でやるのが当たり前で支援事業だけでやられても他の事業がなかなか出来ていかない。

【北折佳司委員】

・説明を聞いて、こういう森づくりに関して都会からこの事業をやって若い人なり、いろいろな方が興味を持って来てくれるかということを中心に考えたい。

・綺麗になっただけで人も増えないし、かえって寂れていくばかりで金額的にはもう少し減らしてもいいと思ったが、説明の中でいろいろなボランティア活動で地域の子供たちと一緒に巻き込んでいくような話があり、その熱意を買って8割くらいは認めていいのではないか。

【平井達夫会長】

・金額の精査をする。支出の部96万6千277円。苗値が66万6千295円。資材費が11万2千762円。消耗品費が4万3千900円。食糧品が3万円。保険料が2万4千650円。借り上げ量が8万1千680円。トータルが、96万6千277円となっている。これについて意見をいただきたい。

【福崎幸一】

・まだまだ事業が続き、これで一旦終わるということではない。苗木も少し高いので、7割くらいの金額でいいと思う。

【山岸G長】

・先ほどの西田委員から苗木が2倍で金額が3倍になっているという話だが、実績からすると苗の量も3倍、金額も3倍なので2倍と3倍ではないと思われる。活動支援事業の提案書の中で、27年度に320本の植栽を実施した。本年度は約千本で3倍の苗と思われる。

【西田節夫委員】

・去年は苗が84本ずつだったが今年は168本で倍である。

【山岸G長】

・トータルではなく1種類ごとの苗木が倍だという意見ですか。

【西田節夫委員】

・トータルでなくて桜なら桜。種類ごとに言うとオオシマザクラ84本。今年は186本ですから倍。ヤマザクラもそうであり、トータルで言っているのではない。

【山岸G長】

・細かい部分ではあると思うが、去年植えた苗と今年の苗の種類が違う。1種類増えている。単純に2倍という話ではない。

【小林良一副会長】

・国川の申請は復興ということを目的としてやってきている。七掛けしても木の本数がただ減るだけとなるので、今年は満額で通してもらい次年度からは、その辺を精査しながら取り組んではどうか。

【古海誠一委員】

・同様の意見だが去年の苗の内訳と今年の苗の内訳は全く違うので、単純に比較できない。今年はこのまま満額で認めてよい。

【古川政繁委員】

・満額でお願いしたい。駄目であれば、どうするか採決でお願いします。

【北折佳司委員】

・本来ドングリとか栗を植えたいという話があったが、実際には熊による被害の心配があった。国川で栗とか柿とか食べられるものを植えちゃいけないのかと気にかかっていたので、誰か説明していただければ、私は満額でもいい。説明が無いのであれば8割、7割ということになる。

【古海誠一委員】

・一昨年、国川の地すべり跡地に柿の木にクマの爪痕があったり太い枝が折られたりする実績があった。また、別所地内にも時々熊が出ているという情報がある。
・達野集落でも柿団地を作ったが熊にやられて危ないということで、柿の木を全部切ったという実績もある。

【平井達夫会長】

・金額の精査は満額という話と7割、8割の金額、再度見直す必要があると3つの意見が出ているが採決する。
・それでは、「絆の森事業」について満額という意見は挙手を求める。

【委員】

・(挙手多数)

【平井達夫会長】

・「絆の森事業」について、満額の96万6千円として採択する。
・続いて、事業No.6「箕冠城址利活用及び440年祭事業」の質問・意見を求める。

【島田信繁委員】

・飲食の件だが鍋料理は、来た人に無料で出している。役員・関係者は自前で飲み物食べ物を用意してきているので、ご理解いただきたい。

【小林良一副会長】

・440年という中途半端な年号でやっている。今までも中途半端な年号でやっているということだが、どこかでけじめをつけて切れのいい祭りであれば以後、区切りでよい祭りができると思う。

【島田信繁委員】

・いろいろな歴史関係の先生から集まっていたいて会議をしたが、はっきりとした年数が出てこない。たまたま資料の写真があり、その年数から追って数えたら一応、この年数になった。

・本当に間違いないという年数ではないので、仮定ということでお考えをいただきたい。

【古海誠一委員】

・私も440年にこだわって質問をさせてもらったが、明確な答えが無くて前の写真から数えていたという話では通らないので調べてみた。大熊備前守朝秀が亡くなったのが1582年、織田と武田の天目山の戦いで亡くなった。そこから数えると442年である。

・440年もおかしいが、史実として残っているのでポスターやチラシに440年祭と刷り込んでしまうと、何で440年かと歴史研究家が言うと思うので、440年は引っかかる場所である。

【西田節夫委員】

・事務局から飲食について話があったが、飲食で使った場合、1回は認めてきた。2回目以降の飲食は何も残らないので、私は、4万1000円の内3万2千円の食材は地元で負担してほしい。

・新幹線の通過の予定表についても来るときはみんな調べてくるので、必要ないと思う。今の440年祭について私もそう思う。横断幕もいらなくなるかと思う。

【北折佳司委員】

・狼煙は素晴らしいイベントなので、地元の方と一緒に狼煙を見る、お祭りを見るそういう集客力があるということはいいことかと思う。

- ・440年祭は確におかしいと思うので、別の形にしていればいい。

【長藤豊委員】

- ・大鍋祭りの飲食費だが、Q&Aの中に「原材料費を対象とすることはできます」と書かれている。
- ・中身は燃料、器具のリース代、食材費で、逆に認めないとこれに合わなくなってしまう。金額としても大きな金額でないので、認めてよいのではないか。

【小林良一委員】

- ・新幹線の時刻表というのは、一番景観の良い所で建てる話があったが写真を撮りに来る人は時刻に合わせて来ると思うが、その辺はどうか。

【島田信繁委員】

- ・写真マニアだけでなく普通の観光客、箕冠山に来られる方も上に登って「新幹線通るかな」とそういう疑問の声も聞いているので、それで時刻表を置いたらどうだということになった。

【小林副会長】

- ・管理運営で何年か経てば時刻表も変わってくる。その辺も踏まえた形できちっとやってくれるということであればよいが。

【島田信繁委員】

- ・その辺の状況は、改正があった場合に対応すると連絡協議会の会長から聞いている。

【長藤豊委員】

- ・時刻表の件だが、この時刻表自体が俗にいう撮り鉄の方が自分たちが撮るのに便利なように作成したと記憶している。
- ・そういったものを公の場所に置くのはどうかということが一つと、20日に現地確認に行った時に時刻表に書かれている時間ではない時に、実際に新幹線が通っていた。
- ・載ってないのに新幹線が通ったということになると、不信がられる点もあるのではないか。この時刻表を掲げるのは、控えた方がいいのではないか。

【小林良一副会長】

- ・先ほど古海委員が言われたとおり、440年という確約たる基盤があって横断幕を出すのであればいいが、不確定の要素でやるというのがわかっている状態で横断幕を掲げるというのは問題がある。

【西田節夫委員】

・話が出ているのは、飲食の食材と新幹線の予定時刻表、必要か必要じゃないかまず決めないと決まらない。

【平井達夫会長】

・項目によって金額を査定したい。のぼり旗、新幹線通過時刻表、横断幕、今440年という文字を問題としているが、入れないで外してよいか。

【小林副会長】

・そうすると「440年の記念事業」という名目があるが根底から崩れる。440年記念事業として審査するというので、440年を削ると単なる祭りのためにお金を出してくださいということになる。

【北折佳司委員】

・毎年山の上で祭りをやっていたのであれば、理由になるかと思うが今年だけなら削除したらと思うが。

【島田信繁委員】

・箕冠の夏祭りは毎年やっている。

【平井達夫会長】

・削除したらいいのではないかという意見も出ているがどうか。

【島田信繁委員】

・横断幕に関しては、やはりはっきりした年数が出ていないので、削除でしょうがない。チラシはまだ多分発注していないかと思う。この項目が入ったものについては、削除にするという形にするより仕方がないか。

【徳永妙子委員】

・これを見ると板倉採択方針で皆さん〇である。440年祭事業に関しては〇である。それをここで440年を入れないとかというのはちょっとおかしいような気がする。誰も440年はおかしいということが一言も書いてない。

・今言われたように金額の精査をするというのであればよいが、440年を削りましようという話は、この板倉採択方針に関していうと違うと感じる。

【古海誠一委員】

・440年についてはヒアリングの時にも質問したが、分からなくてやっと調べがつ

いたのが今日である。だから、皆さんその440年というのは知らなかったと思うし、普通だったら450年祭だが、その辺も認識が無かったということでないか。

【西田節夫委員】

・440年は削除じゃなく金額で精査して減額をするということで、あまり難しくするとまとまりがつかなくなる。

【平井達夫会長】

・それでは一応、お題目については異論があろうが440年ということで14名全員が採択、後は詳細については一応それに関連する横断幕、これについては削除する必要があるという形でよいですか。

【北折佳司委員】

・やっぱりこの場でいろいろ考えが変わるのが当たり前だと思う。前、全員〇したからこれでいくと締め付けられても困る。

【平井達夫会長】

・それでは横断幕については、削除してよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・次は新幹線時刻表、これについても削除してよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・その他、「440年」というものを入れないということを条件でポスターについては了承。鍋について食材の4万100円についてはどうか。

【小林副会長】

・今年は食糧費についての決めがないので、次の支援事業の板倉の採択基準にその辺きちっと文書化して盛り込み次年度以降、取り組んでいけばよいと思う。

・出す人がその辺明確に分かっていて食材出しているのかという部分もあり、それを規定ではっきりこれは駄目ですよと謳えば、それは今度出してきたときに駄目だと明確である。

【平井達夫会長】

・毎年、地域活動支援事業の部会で検討するが、次年度にその辺を検討して、必要があれば文面に入れ込むという形の提案だが、それでよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・それでは地域活動支援事業の部会で検討させていただく。確認だが横断幕3万2千886円。新幹線の通過予定時刻の表示版5万5千490円。金額で精査して減額するのは、これだけでよいか。

【古海誠一委員】

・狼煙上げの材料、丸太9センチで長さ1メートル。25本。素晴らしい材料を使うが焼山狼煙を上げる会では、製材所から端材をもらって謝礼として5千円払っている。そのレベルなので1万円は削ってもいいと思う。

【西田節夫委員】

・普通は狼煙上げといえは時間が決まっている。ここはイベントやっているからイベントやっている間、燃やしているのか。

【島田信繁委員】

・時間を決めてやっている。

【古海誠一委員】

・狼煙は長くても5分か10分である。

【西田節夫委員】

・箕冠城の狼煙を上げるといって、見てもなかなか見えない。古海委員の言いわれるように5千円くらいで出来るなら、1万円くらい落とした方がいいかと思う。

【平井達夫会長】

・狼煙上げの材料として1万円、新幹線通過時刻表5万5千490円、横断幕3万2千886円カットとする。事務局、助成額はいくらか。

【山岸G長】

・合計は30万9千36円である。

【平井達夫会長】

- ・確認します30万9千36円。そのように決めさせていただく。
- ・助成額30万9千円でよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・箕冠城址（公園）の利活用及び440年祭事業については、提案どおり採択とする。助成額は30万9千円。減額の理由は先ほど申し上げたとおりとする。

【平井達夫会長】

- ・続きまして事業No.2「玄藤池あやめの里創出事業」について質問・意見を求める。

【西田節夫委員】

・ベンチの長さを聞いたら4メートルで12個作ると言っている。4メートルで12個作るとなると84人座れるが、こんなに必要かと聞いたが答えなかったが、半分の6個としても42人座れる計算である。

・丸太は杉材をもらってくるそうだが、ヒアリングでは製材した中で職人がカンナ掛け、防腐剤を塗るようになっている。それを持って大工さんに加工賃とベンチの削りと防腐剤云々となると、これはダブっているのではと質問したら、はっきり回答できなかったのもので、作業工程として加工してから防腐剤塗るのが普通ではないか。だからその辺を減額しないといけないかと思う。

・パイプハウスは2.5メートルの4メートルで、今あるパイプハウスについては、農業用のシートがもう剥がれて交換したいということで、これは14メートル幅が4メートルで、これだけあればよい。2つもいらなと思う。

【小林良一委員】

・ベンチを作っても、日ごろから何名が使っているのかだとか、いろんな数字が出ていけば、それは必要だということになると思うが、とりあえず半分の個数を設置して、その利用率をみて結論が出ればまた追加すればいいので、最初から満額の全部設置でなくてよい。

【北折佳司委員】

・時々筒方に遊びに行くが、本当にこのあやめ池を成功させるために大変な努力をされているのを聞いている。

・かなりきれいになりつつあり、今の形でベンチを半分に減らすという形でよいと思う。

【平井達夫会長】

・それでは「玄藤池あやめの里創出事業」については提案どおり採決してよいか。金額的について、ベンチについて半分という提案があったが。

【西田節夫委員】

・ベンチを半分にすると1木材の運賃、製材加工料金、2ベンチ加工費、3重量ブロックは全部2分の1になる。

・パイプハウスは車の車庫で黒いシートになっているので、あそこに置いても見えない。

【島田正美委員】

・これは雨の時にお客さんが入るためか。雨の日っていうのはお客さんが少ないのではないか。必要あるのかという疑問も感じる。

【北折佳司委員】

・地元から申請が出ている以上、実際にあつたらいいという話で来ていると私は思うが、単純に削るのはどうか。

【古海誠一委員】

・この案件についてはベンチを半分にするだけで、後はそのままでもいいと思う。

【平井達夫会長】

・ベンチを半分にしてパイプハウスは必要ないという意見と、ベンチは半分にしてパイプハウスはそのまま要望どおりという意見がある。

・採決する。一応、ベンチは半分ということはみなさんの意向と思うので、パイプハウスについては要望どおりという方は挙手願う。

【委員】

・(賛成多数)

【平井達夫会長】

・賛成多数で要望どおりとする。ベンチは半分ということで事務局いくらになるか。

【山岸G長】

・単純に2分の1にすると合計が25万6千816円になり、千円以下切り捨てとな

り、地域活動支援事業は25万6千円、自主財源816円となる。

【平井達夫会長】

・只今事務局からそのような報告があったが、それでは「玄藤池あやめの里創出事業」については採択する。金額については25万6千円ということで確認する。

・引き続き事業No.9「板倉地域小学生バレーボール振興事業」について質問・意見を求める。

【小林良一副会長】

・自分のことだが小さい頃、少年野球をやっていてユニフォームとかは、通常親が支給するというので、やはりソックスとか人が使ったソックスをそのままいいという人ならいいが、その辺を使い回しにするというような形も問題ある。

・例えば卒業する人が、下の人にユニフォームを無償で譲るとかそういう形ならいいが、個々にこういう形で買ってあげるのは、バレーボールだけでなく、いろんなスポーツやっているところがあるが、一回こういうのが通過すると、他のスポーツからもという形に成りかねない。

・器具、備品等は良いがシャツ・ユニフォーム・ソックス関係は、無い方がいいのではと感じる。

【上野きみえ委員】

・私も小林委員と同じ意見である。ユニフォームは自前で買っていただいて、残すものは8番の男子横断幕、12番の女子横断幕、14番アンテナセット、15女子支柱ポストカバー、16男子ボールカゴ、17電子ホイッスル、18モンテン試合球、19ミカサ試合球、20ミカサボールバック、21、22モンテンボールバック、23女子バレーネット、24ネット巻用ハンドル、25の消耗品は除いて26番のチラシ印刷代は了承ということで、ソックス関係、ハチマキ、マーキング代、チームジャージは除いていいのではないか。

【北折佳司委員】

・このバレーボールは全国で優勝するようなチームで、みんなで応援しなければならないが、生徒は頑張って税金使わないであんまり大人に頼らないでやりましょうということによい。

【徳永紗子委員】

・今の北折委員の意見ですが、バレーは強いらしい。入ってくる人数が少ないようで、今後続けていけるかというところが疑問で一生懸命勧誘しているという話を聞いた。

・ユニフォームを見ると、今強いので頑張って全国大会に行けそうな話だが、今後に繋がるというところは不透明であり、私も上野委員の言われたとおりユニフォーム代は削除して、運動をするのに必要なものに関しては、このとおりでよいのではないか。

【平井達夫会長】

・それでは上野委員から発言のあった必要なものでは、いくらになるか。

【山岸G長】

・必要だというもののトータルは、35万9千950円になる。

【平井達夫会長】

・それでは、「板倉地域小学生バレーボール振興事業」について採択とする。金額については、35万9千950円。補助金は35万9千円である。

【山岸G長】

・グリーンファイターズは昨年も申請されていて男子のユニフォーム等を購入している。去年は申請が通ったが今年は器具や備品等は認めユニフォームを減額するという話になったが、理由について去年のことに触れず今回の審査にあたって先ほどの意見でよいか。

【小林良一副会長】

・今年から協議員入れ替わり、それぞれの協議員の考え方も新たに取り組んでいくという形なので、今回の会議の中でユニフォームとかは自前で調達していただいたらどうかという意見が出た。その代り備品とかその辺を出そうということになったということではよいのではないか。

【山岸G長】

・了解した。

【平井達夫会長】

・次に事業No.10「みよしの里美化整備事業」について、質問・意見を求める。

【西田節夫委員】

・去年も100万円の申請で初めてということで半分の50万円に減額した。自己財源が10万円位出してそれで全部終わったという話だ。

・今回も100万円で、この場所についてはやすらぎ荘が行政から指定管理を受けている所であり、逆にやすらぎ荘がやればいいのかと思うが去年も50万でやって終わったということで財源持っていると思うが、やすらぎ荘を利用させていただくために目の保養ということでやると思うが、芝桜はずっと咲いているわけでない。

・この場所については、川の土手の方で勾配が急で前回も話をさせていただいたが、勾配が急な所についてはシートを張ると、雪解けになると滑って一緒に芝桜も駄目になる。

・この防除の仕方は考えていないということで、今年は雪が少なかったから、雪崩にはやられなかったが、代わりにモグラにやられたという話だった。支援事業やるのであれば50万で減額した方がいいかと思う。

【古海誠一委員】

・去年の経緯から去年は50パーセントに減らしましょうということで50万円にしているので、50万だけ認めてそれでやれるだけやってほしい。

【小林良一副会長】

・昨年50万円であれだけ立派な事業をやったので、今年も50万円でやっていただいて、去年は継続して出せるという形なのでトータルで150万の投資なので採択されるかどうかは別として、3年で150万円の投資ということで昨年と同様に50万円で出来る範囲でやってもらおうと、一気にやって傾斜がきついような状況での植栽となるので、それがいいかと思う。

【島田正美委員】

・去年も半額であれだけのことをやったので多少、今年は違う工法でやるようだが出来る範囲でやってもらえばよい。出来れば来年も続けてもらいたい。

【平井達夫会長】

・それでは、金額的にも半額。昨年同様ということで50万円としたいがよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・昨年同様助成額50万円とする。

(休憩2分)

【平井達夫会長】

- ・協議を再開する。事業No.4「地域の観光案内看板設置個所の舗装事業」について質問・意見を求める。

【古海誠一委員】

- ・すでに寺野地区で150万円と50万円で200万円決定しており、およそ3分の1を寺野地区で決まっているが、地域という配慮も必要である。
- ・ここの舗装は、緊急性から考えると今すぐやらなくてもいいということで砂利整地費用と観光資料箱の設置だけ認めればいいのか。

【小林副会長】

- ・非常にごもつともな意見だが、板倉区全体にいろいろな支援事業をやらなくてはならないという趣旨もわかるが、春先かなりひどい状態を見ているので今言ったように取りあえず暫定的に整地だけして、来年の春どんな状況かを見ていただいて再度支援事業に出す可能性もあるので、その辺も含めていただきたい。
- ・砂利だけ敷いておいて春先になってもっとひどい状態が持つかわからないが、最悪の場合はそういう形で考えたい。

【西田節夫委員】

- ・申請書にも書いてあるとおり、ここは元々田んぼだったので地盤が軟らかい。春先になると雪解け水でぬかるむ。出来れば小林委員も言われるように来年の春そこら辺も踏まえてやっていただきたい。

【小林副会長】

- ・県道の乗り入れということで、入り口だけ深く掘って作らなければいけないが、出来ればこの工事だけ終わっていけば、来年最初から県道乗り入れの審査をしなくて済むのでありがたい。
- ・その場所自体が入り口なので、駐車場として認められる場合は審査を受けないと次のステップに進めないなので、考慮していただければありがたい。

【古川政繁委員】

- ・きちっとやってもらい様子を見ながら考えるということで、減額でお願いしたい。

【平井達夫会長】

- ・その他質問・意見ないか。無ければ金額の精査に移る。今提案のあった乗り入れ部工

事となっているが提案からすると、これ以降の数字になるのではないか。全般の部分は除外してという形になる。事務局、観光資料箱4万3千円と雑工事1万5千円を含んで合計いくらか。

【山岸G長】

・今、乗り入れ工事と資料箱と雑工事でいいのではないかという話だが、トータルでやるとなると必要なものが他にあるのではないかということで、次長から説明してもらおう。

【山崎次長】

・支出の部から整理すると乗り入れ部については、満額24万3千530円必要。駐車場部分については砕石仕上げでいくと、上から砕石不陸調整は必要である。止型枠はコンクリートの型枠と思われるので不要。目地切もコンクリートなので不要。生コンは不要。刷毛引仕上げも不要。ユンボ、これはバックホウだが砕石を敷くために地ならし等を考えた場合にはこれは必要。あとバックホウ（ユンボ）の搬送も必要。養生についてはコンクリートの養生ですから削除。観光資料箱については先程必要ということでしたから良いと思う。雑工事についてはこの観光資料箱の基礎等の雑工事という形でしたら、必要である。経費については1万5千円については安いと感じる。何パーセント諸経費を取っているかわからないが、若干安いと感じる。

【山岸G長】

・今次長から説明があった内容でよければ、トータルで40万8千円920円になる。

【北折佳司委員】

・確認ですが乗り入れ工事のコンクリート打ちはあるのか。

【小林副会長】

・あります。

【山崎次長】

・県道の乗り入れ申請を出さないとこの工事はできないので、この部分については仕上げをしようということが大前提である。

【小林副会長】

・今ほど審議いただいたが、申請したものと大幅に仕様とかが変更になっているが、これについては変更届を出さないとだめか。

【山崎次長】

・乗り入れについては構造的に変わらないので、別によいかと思う。元々コンクリート仕上げで、それについては変わらない構造なので問題ない。

【小林副会長】

・その他の、碎石の仕上げになっているが、これがコンクリートで申請している。

【山崎次長】

・乗り入れについてはコンクリートか。

【小林副会長】

・乗り入れとその他の全体でコンクリート舗装すると申請されているが、乗り入れの所だけはコンクリートあるが、少し仕様が変わってきているのではないか。

【山崎次長】

・県道からの乗り入れ分については変わらないので、それは問題ない。

・その他の所については民地の開発なので問題ない。

【福崎幸一委員】

・碎石不陸調整は154平方になって、乗り入れ口にそんなに使わないと思うが。

【小林副会長】

・碎石は全部やる。

【平井達夫会長】

・質問・意見が無ければ「地域の観光案内看板設置個所の舗装事業」の助成金額については、内容を変えるとということで申請については、全量コンクリートということであったが、入り口のみコンクリートの仕様変更ということになる。40万8千円920円、40万8千円でよいか。

【長藤豊委員】

・元々は1万円未満を自主財源として出されるつもりでいるが、それから言うと40万円ということにならないか。

【平井達夫会長】

・40万8千円でよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・では、「地域の観光案内看板設置個所の舗装事業」は40万8千円で採択する。
- ・続いて事業No.11「針観音堂33年御開帳関連整備事業」について、質問・意見を求める。

【増村眞一委員】

- ・33年にあたるのが平成30年とある。観音堂の改修の工事ですか外周の補修、外周のコンクリートの補修。灯籠揃いミニ灯籠の復元。とりあえずこれだけにして置いて、地蔵堂とかはまた来年出ると思う。
- ・縁日グッズの購入とチラシは針町内会で別にこの支援事業に入れる必要はない。必要なものは外周のコンクリートの補修と灯籠で、とりあえずこれだけにして、後は来年に地蔵堂の改修をしたらどうか。

【古海誠一委員】

- ・今、板倉区内では六地蔵が16箇所ある。各町内会等で改修をしており、最近では平成22年に福王寺集落の経費として約50万円で改修している。宮島地内の宗教法人でも平成25年に自費で改修をしている。
- ・六地蔵の観音堂だけ支援事業となると他の町内会からも出てくる可能性がある。これは認めるべきではない。

【西田節夫委員】

- ・観音堂の外観が崩れかかっているから、これと今言われるようにミニ灯籠を観音堂の所へ付けて昔の灯籠を再現したいということで提案している。外周とミニ灯籠で35万4千円ぐらいになると思うので、そこら辺を議論していただきたい。

【小林良一委員】

- ・33年のご開帳に向けて行うということだが、広報活動は既にこの金額の中に入っているが、ご開帳の前の年でも十分対応できると思う。

【西田節夫委員】

- ・前回のヒアリングの時に、これから検討委員会を立ち上げて予算を組まないと前に進まないということで、広報活動は平成30年ですから来年でも間に合うので、まだ早い。灯籠揃いの祭礼の子供に半額を補助すると書いてあるが、これはやはり、そうではないだろうと思うので、今、言われるように外壁とミニ灯籠でいいかと思う。

【北折佳司委員】

・全体的な視点の話がないので、これだけ取り上げて話ができないので観音堂外周の補修とミニ灯籠、場合によっては外周の補修だけでいいのではないかと。

【西田節夫委員】

・私も字の協議委員の頃に33年と言うと長すぎるので11年に1回やって、33年にぶつかった時は盛大にやればどうかという提案をしたが、まとまらなかった。

・一応市の文化財の指定にはなっているので、皆さん見に来てもご開帳でなければ見せるわけにはいかないの、11年に1回どうですかという話をしたが、これから町内会で話し合いをしていきたい。

【平井達夫会長】

・それでは金額を精査していきたい。観音堂の外周補修18万8千円については、いかがか。

【古海誠一委員】

・山寺薬師のお堂の改修と同じようなものなので、認めてもいいのではないかと。

【平井達夫会長】

・認めてもいいという意見でよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

それでは観音堂の外周補修18万8千円、次にミニ灯籠の復元について16万5千4百円出ているが、このままでよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・それではミニ灯籠の復元について16万5千4百円ということで、この2項目についてという意見が大勢を占めたと思うので、これでよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・事務局、トータルはいくらか。

【山岸G長】

・その2つのトータルは354,226円。減額の理由で地蔵堂の方は他の町内会との平等性という話が出たかと思う。それと後2点、グッズの関係を認めない理由と広報活動はイメージ的には33年のご開帳の方ではないような気がしているが、その削除の理由を今一度確認したい。縁日グッズの方は。

【増村眞一委員】

・縁日というのは毎年の祭の時にやっている。33年のご開帳とは関係ないし、こういうのは町内会で支出する項目だと思う。

【山岸G長】

・地蔵堂の改修について最初に増村委員の発言では、来年でいいのではないかという意見だったが、その後、他との平等性ということで、事務局的には平等性という部分で減額の理由を説明しようと思っているが、今後、似たような16ある地蔵堂の関係で支援事業の募集が出てきた時には、お断りするということになると思うが減額する理由としては、そういうことでよろしいか。

【平井達夫会長】

・事務局の説明のとおり平等性という部分で減額の理由としてよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・それでは、「針観音堂33年御開帳関連整備事業」については、採択ということで助成金35万4千円としてよいか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・引き続き、事業No.5「高齢者健康福祉向上地域活動事業」について、質問・意見を求める。島田委員は板倉区カラオケ達者会会長のため、審査から退席願う。

(島田委員、退席)

【古海誠一委員】

・地域住民が自主的に福祉活動を行う事業であり、このまま要求どおり満額で認めて

よい。

【北折佳司委員】

- ・少し反対のところがあり、今日、寺野さくら園に行き6月5日に津軽三味線をやろうと決めてきたが、要するに寺野さくら園のようなお年寄りの施設こそ、こういうカラオケをやる場所かと思う。
- ・各集落の集会場をまわることが、多分1年で尻すぼみになることが考えられるので、カラオケの内容にもよるが今回は必ずしも満額は必要ないという判断である。

【小林良一副会長】

- ・板倉区でも高齢化がどんどん進んでいる状態で声を出すという機会が少ないが、合唱で声を上げることによって皆さん元気になる。
- ・だまっていると縮こまってしまう老人達が多いと思うので、古海委員と同じような意見で満額でよい。

【古川政繁委員】

- ・私も満額でお願いしたい。参加料も取るし、お茶代も取る。金額も少ないので、ここは満額でお願いします。

【平井達夫会長】

- ・満額という意見が多いが、それでは、満額でよいか。挙手をお願いします。

【委員】

- ・(挙手多数)

【平井達夫会長】

- ・それでは満額ということで金額は38万円。続いて、事業No.7「聖の岩窟整備事業」について、質問・意見を求める。

(島田委員、席に戻る。)

【新井清三副会長】

- ・聖の岩窟の事業には3年かけ多額なお金が道路にかかっている状況である。ヒアリングの時に岩窟本体の安全性を確認させてもらったが、今ここで安全性がないということで事業を打ち切ったのでは、この整備事業も途中で終わってしまう。
- ・今年は現場視察させてもらった限りでは最後になるかと思う。今度はそれをいかにきれいに管理していただくかを宿題として、今年はこれで採択をお願いしたい。

【西田節夫委員】

・板倉の採択方針に書いてあるとおり、各団体から3回目以降の事業についてどうしても必要だということになれば、皆さんで審査して決めることになっている。

【古海誠一委員】

・判断材料で昨年、寺野歴史を語る会で同じ事業で4年目だったという理由で却下されている。ここで決めてもらえばいい話だがそういうことがあるので、お含みおきいただきたい。

【小林良一副会長】

・昨年の丈ヶ山の件だが半分はどうだという話まで出たが、全額却下になったという前歴がある。理由としては3年経過して却下となったと報告してあると思うが。

【北折佳司委員】

・基本的に観光というよりも都会との交流、若い人を呼び寄せる、それで地域が初めて活性化できるという観点からすると丈ヶ山の地元が一生懸命にやって、いろんな人を巻き込んで都会から来た人を丈ヶ山登山があるから一緒に登ろう、そういういろんな企画をしている。

・去年削られたのは残念という考えをもっているので、反省の意味で聖の岩窟というのは親鸞ゆかりの地という観点からいけば切っても切れないので、3年にこだわらないでもよいのではないか。

【長藤豊委員】

・今、先ほどの「高齢者健康福祉向上地域活動事業」まで合算すると563万2千円まできているので、これを満額入れるとオーバーする。

・下見の時に乗用車に乗せていただいたが、現地の道路では車体が擦りっぱなしで、部分的にコンクリートで舗装するよりも、他に考えなければならないところがあるように感じた。

【山岸G長】

・今、長藤委員が途中経過の金額を発言されたが若干違っている。今の「高齢者健康寿命向上地域活動事業」までで総合計が503万2千円で、配分には136万8千円の余裕がある。

【古海誠一委員】

・この聖の岩窟と恵心尼頭彰公園へいかに安全にいけるかというのが、この提案の主旨だと思う。今の栗沢ルートと猿供養寺ルートがあり、どちらもマイクロバスとかでは行けない状態で、普通の方は乗用車で猿供養寺ルートで行くが、結局山寺から来る三叉路の所で回れない。わざわざ山寺側まで行って駐車場でUターンして、聖の岩窟の駐車場まで行くのが常になっていて、非常にあの三叉路が聖の岩窟の見学のネックになっている。

・私の個人的な提案だが、寺野の歴史を考える会と栗沢町内会で話し合っ、是非山寺から来る三叉路の拡幅、そこをやらないと根本的な解決にならないと思うので、是非それを進めてもらいたい。

・これからよく検討していただき来年に何が何でもあそこの三叉路の改修をして、マイクロバスも上がれる、普通の乗用車も腹を擦らないで上がれる、そういうルートにしていれば、観光客も大勢来るのではないかな。

【西田節夫委員】

・3年ということで寺野の歴史を語る会の提案を却下したので同じ条件であり、ここできちっとしておかないと歴史の会が怒る。やはり皆さんで先回そういうふうに採択した訳ですから、一緒にしてやらないと去年やられた人は何だという話になってしまいますので。

【山岸G長】

・先ほどから3年という話が出ていますが、28年の板倉区の募集要項、採択方針を定めるに当たって検討部会で検討していただいて、3年という数字は一応残っているが、地域協議会が十分議論して必要と思う事業は採択すると変えている。去年度3年ということで採択しなかったもので、今年もというのは少し違うという気がする。

【平井達夫会長】

・事務局の説明では当初は3年というスパンで考えていた。しかし、いろいろと支援事業をやっていく中で、完成しないということで地域協議会で検討して、3年とは言わずと、本年度の採択内容については、そのように変更したということである。

【北折佳司委員】

・もう一度聖の岩窟を考え直して計画を出し直すとしても、ある程度予算を認めていただき、丈ヶ山と交流する時間を検討した結果を報告することを条件にしていだけ

れば、聖の岩窟、山寺薬師、丈ヶ山は、本当に同じ場所なので、一体になって考えた方がいいという意見には賛成である。何とか検討をお願いする。

【平井達夫会長】

・今、栗沢町内会の方から提案しているが、今度寺野地区も合体した中で提案した方がいいのではないかという意見か。

【北折佳司委員】

・今回ゼロ査定だというと厳しいので、もう一回予算の方では見てもらい付帯条件を付けてもらえればと思う。

【小林良一副会長】

・地域支援事業トータルでかなりの金額が投資されているが、ずっと支援事業をやってきたが、どれだけの利用者がいてどういう形の活用方法があるか費用対効果なども考えながら検討しないといけない。

【古川政繁委員】

・私も栗沢の方から初めて登った。大変な道だと思ったが、あの道を全部よくすると何十年もかかってしまう。古海委員が言っているように寺野の皆さんとよく相談をして、今後考えた方がよい。

・筒方地区、寺野地区で地域協議会委員も出ているので、しっかりとそこら辺も含めて話し合っていたきたい。

【平井達夫会長】

・本年度についてはどのように採択するか。

【古海誠一委員】

・折衷案ではないが、ひどい所を今回半分の50万円で改修するというので、どうか。

【平井達夫会長】

・100万円に対して半分の50万円という意見が出たが、いかがか。

【小林良一副会長】

・金額的に100万円の半額の50万円という話だが、この基準となるものが本来はないが、折衷案で50万円という金額だと思うので私は賛成する。

【北折佳司委員】

・本当にその案で採択いただければよい。現地にはカタクリが群生している所とか、野草がたくさん自然のまま生い茂っているような所があるので、恵まれた場所だと思う。

【西田節夫委員】

・古海委員が言われるように猿供養寺から上がっていく道は狭いが、三叉路までは舗装してある。三叉路を広げてやれば一番いい案だと思う。乗用車であろうが何だろうが、車の腹が擦らない。舗装してある。ただ、三叉路をかまうと相当なお金がかかるので、今回は栗沢さんと寺野の歴史を語る会できちっと話し合いをした方がいいかと思う。だから、100万円だけでなく150万円でもいいではないか。

【古海誠一委員】

・今の聖の岩窟線を整備しなければならないのは事実だが、際限ないので一番ひどい所だけを今年50万円で行い、来年に向けて寺野の歴史を語る会と検討するということを付帯条件にしていればよい。

【長藤豊委員】

・私も栗沢の住民だが今50万円という数字を出していただいたが、全て一括で100万円という見積りで出してあるので、逆に50万円出すからこれでやれとなると逆に地元が困ると思う。

・今回、これを採用しないと多分、総額640万円に足りない訳だが次に追加募集する際に猿供養寺と相談の上、新たに申請し直して優先的に協議していただくことが可能かどうか、尋ねたい。

【平井達夫会長】

・事務局、今は栗沢の町内会として、この提案については出てきているが、いろいろと協議をしている中で今回、ここでは一応、外して寺野の歴史を語る会とタイアップして追加募集という形になれば、そういうことも可能か。

【山岸G長】

・追加募集になった際に募集は可能だが、優先的に協議は公平性のためできない。

【小林良一副会長】

・今、この7番が止まっている状態なので、次の8番の協議を先に進めてその状況によって、どのように検討するかという考え方もあるが。

【平井達夫会長】

- ・事務局、それについてはどうか。

【山岸G長】

- ・委員の同意があれば、どちらでもよい。

【平井達夫会長】

- ・それでは、次の8番の協議を先に進めてよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・それでは今の事業No.7「聖の岩窟線整備事業」については、とりあえず中断とする。
次に事業No.8「上筒方集落絆の継承事業」について、質問・意見を求める。

【北折佳司委員】

- ・この事業に異議を唱えるのが非常に心苦しいが、今でも現場に行くと花が飾られ前掛けの新しくなった地蔵さんが並んでいる。この地元の熱意を考えると満額といきたいが、実際の環境が良すぎるだけに記念碑が既にあるので、また記念碑というのがとても耐えがたいので、何とか止めさせてもらいたい。

【西田節夫委員】

- ・筒方の方は昭和57年に下りてこられて、三十何年経っている。その当時は木で、当時、増村町長の時代で、その時に石碑できちっと造ってあればよかったが、木で造ったので腐ってしまった。これだけ立派なものがあるのかという意見である。

【新井清三副会長】

- ・私も先輩方から聞いた話で大変申し訳ないが、あそこの集落の集団移転については、あそこで一生懸命生活していた人達が行政の都合で、ここの所は道が改修できない、今の道では除雪もできない、針の方に土地を用意するからどうかというような話を聞いている。
・私もその話を聞いた時には、本当にあそこの所に個人名で1個の記念碑が建てられている。あの気持ちは本当に分かるので、是非検討してやっていただきたい。

【古海誠一委員】

- ・旧上筒方の方々が出された提案書を見ると、まったくそのとおりだと思う。集団移

転という自分達の意志ではない決断をして、それで針の方へ下ったということで、意をくんで設置すべきだ。

・付随した桜の木については賛否両論があるが、石碑については末代まで歴史を語るという意味で設置してあげたい。

【福崎幸一委員】

・今、古海委員の発言はもっともだが、これからもこのような集落移転というのは、多分出てくると思う。この値段を見ると結構高額であるが建てるのは反対ではないが、値段の方をもう少し見直していただきたい。

【古海誠一委員】

・石碑については、我々曾根田町内会で3年前に第2次世界大戦の出征記念碑を造っているが、同規模で造って125万円でしたので値段は適正だと思う。

【平井達夫会長】

・今、単価的には特に問題ないのではないかという意見だが、一方ではもう少し下げられるのではないかという意見だが。

【福崎幸一委員】

・材質を下げるとかの検討ができないか。

【北折佳司委員】

・もう少し自然石みたいな仏像でもいいと思うが、そういう形の方が後々地域の宝になって皆さんに喜ばれるのではないかという考えで、予算を少し減らしてそれなりの値段で、もう一度考えてもらった方が助かる。

【小林良一副会長】

・材質を下げるとか言っても一概にはならないと思うので、桜が約20万円、金額的に妥協できる線ということで10万円下げて、70万円という折衷案でいかがか。

【古海誠一委員】

・多分、石は御影石を使うということで仕様を決めてあるので変更せず、桜については後から皆さんが植えられるので、この20万円を減らせばいいかと思う。

【北折佳司委員】

・私の意見は通らないと思うが、既にあそこに移転したという立派な石碑がある。実際に個人名で建てられた方の気持ちも考えて、その脇にいきさつを書いた石組みを造

ってもらえば景観の見直しになるが、その方がかえって喜ばれるのではないか。

【長藤豊委員】

・今の石碑は3段構成になっていまして、それぞれが下から12万、5万、35万円かかるようになっている。そっくりそのまま全部は必要ないのではないか。

・一番下が石15で12万円、次に台座の大きい石の5万円、その上に35万円がのる。

【北折佳司委員】

・下の石をとっての金額はでないか。桜をなくして、大きな石の3段を一番上だけという値段は。

【平井達夫会長】

・今、北折委員の方から話があったのは、一番下の基礎、石の径が60cm12万円、台の石5万円、合わせて17万円ということか。桜が20万円、石関係が17万円、37万円、その台座が無いということは代わりとしてコンクリートで台を造るということか。

【古川政繁委員】

・記念碑もちゃんと出ているので、私も桜の木はなしにして、来年以降考えていただくという形で、記念碑はこのままでよいと思う。

【平井達夫会長】

・いろいろと意見が出ていますが、いかがしましょう。80万円、70万円、それと合計37万円カットの63万円。一応、いろいろと意見があるが、この3つで採決をとる。

・80万円に賛成という方は挙手願う。

(賛成多数)

・賛成多数で80万円とする。

【山岸G長】

・ここまでにいたる話の中で、ちょうどこの見積りの中から言えば桜の木の部分を自主の方でやっていただきたいということで、石碑の方は認めるということでよいか。

【平井達夫会長】

・確認する。上筒方集落絆の継承事業、これについては、助成金額80万円で決定と

いうことでよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・上筒方集落絆の継承事業については、助成金額80万円とする。事業No.7「聖の岩窟線整備事業」に戻る。参考までに現在のトータルをお願いする。

【山岸G長】

- ・583万2千円です。配分に対して56万8千円の残である。

【平井達夫会長】

- ・事務局の説明のとおり板倉区の支援事業の総額640万円に対して、現在583万2千円で、56万8千円の残で検討いただきたい。

【古海誠一委員】

- ・先ほど出した折衷案に近い数字なので、56万8千円についての事業を聖の岩窟の整備事業にしていただければと思う。

【長藤豊委員】

- ・先ほどの意見のとおり本当に危険な場所だけを直すということで、今、最終的に残っている56万8千円の範囲で十分できるのではないかと思うので、それで承諾いただけると栗沢としてはありがたい。

【平井達夫会長】

- ・それでは地区の地域協議委員の長藤委員から、そのような発言をいただいた。56万8千円ということによいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

- ・「聖の岩窟線整備事業」は、56万8千円とする。それでは審議していただいた結果を平成28年度地域活動支援事業の審査結果として市の方に報告してよいか。

【委員】

- ・「はい」の声多数。

【平井達夫会長】

・審査結果については文書で総合事務所長宛てに報告することになっているが、作成と報告については私と小林、新井両副会長に一任していただけるか。

【委員】

・「はい」の声多数

【平井達夫会長】

・それではそのようにして進める。次に（２）その他に移る。板倉区地域協議会運営についての内規について事務局の説明を求める。

【山岸G長】

・資料No.3により説明

【平井達夫会長】

・質問・意見を求めるが意見ないので、板倉区地域協議会運営に関する内規については以上とする。次に部会の編成について、事務局の説明を求める。

【山岸G長】

・資料No.4により説明

【平井達夫会長】

・次に各部会の座長について報告をお願いします。地域振興部会からお願いします。

【西田節夫委員】

・私のところは、私がいままでやってきた。後の3人の方は今年初めて入られた。この間協議をして、私がやる。

【平井達夫会長】

・健康福祉部会は徳永委員である。産業建設部会

【古海誠一委員】

・古海です。

【平井達夫会長】

・地域振興部会は西田座長、健康福祉部会は徳永座長、産業建設部会は古海座長とする。他に協議事項は無いので、これで本日の協議事項を終了する。

・本日の会議録の確認は古海誠一委員にお願いします。次回の地域協議会については、6月20日から24日の間に実施したい。その間具合の悪い方は申し出てほしい。

【徳永妙子委員】

- ・できれば20日ではないほうがよい。

【平井達夫会長】

- ・後は事務局と決めさせていただく。18時から行いたい。

【山崎次長】

- ・以上で本日の日程を終了する。最後に新井副会長から閉会のあいさつをお願いする。

【新井清三副会長】

- ・あいさつ

9 問合せ先

板倉区総合事務所総務・地域振興グループ TEL0255-78-2141（内線 123）

E-mail : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。